

## さいたま市山岳連盟 雪山講習会

1. 趣旨 雪山での基本的な技術、および緊急時の対策を習得する。
2. 主催 さいたま市山岳連盟 遭難対策委員会
3. 日にち 2008年1月27日(日)
4. 場所 谷川岳 西黒尾根(高圧線の鉄塔付近)
5. 講師 奥蘭 義輝氏(山岳プロガイド)
6. 参加人数 34名(さいたま市山岳連盟 加盟団体の会員)
7. 集合場所・時間 ロープウェイ立体駐車場6階 入口・AM8時
8. 講習内容

雪山登山の基本的な技術の取得及び緊急時の対応(ビバーク)など

(1) 深雪のラッセル ワカンについての考え方

3人を1組として練習。両腕とピッケルによる雪のかき込みと膝による踏みつけ。トップ交代のタイミング。

(2) 緊急時のビバーク

2人1組で行う。雪の段差を利用した半雪洞とツェルト併用法。尾根上の真下への半雪洞とツェルト併用法。いずれもピッケルやコッフェルを使って掘ってみる(スコップは使わない)

(3) 強風下でのツェルト張り 固定用アンカーの取り方。

(4) 急斜面でのビバーク。セルフビレイの取り方。ツェルト内での炊事。

(5) 雪壁登攀中のビレイの取り方

スタンディングアックスビレイ ボディビレイ

(6) アンカー設置の方法(スノーバー、デッドマン、その他)

セルフビレイも併せて。

(7) 連続登攀時のロープワーク

コンテニューアスとスタカット タイトロープ

(8) 氷河でのロープワーク。

9. 持ち物、用意する装備

(1) 個人装備

冬山での服装の他、ピッケル・わかん・ストック

(2) 各会ごとの装備

ツェルト、スノースコップ、スノーバー、コンロ、補助ロープ、コッヘル  
各会ごとの参加人数に合わせ適宜用意する。

今回の講習は、雪山の経験や技術レベルを問わずに参加者を募集し、基本的な技術、および緊急時の対策について習得する事を目標としました。講師は、プロガイドの奥園氏です。

最初は、登山指導センター裏の斜面でのラッセル訓練。前夜からの雪で以前のトレースは無くなっており、横に広がって各々にトレースをつけながら登って行きました。高圧線の鉄塔の所で、半雪洞を掘りツェルトをかぶってのビバークを想定しながら昼食。その後に、雪面でのアンカーの取り方や基本的なロープワークについての講習がありました。14時過ぎに終了、駐車場まで下山して今回の講習会を終了しました。

最近の冬山は、しっかりしたトレースがついている事も多くなっています。しかし、基本的には自分たちでラッセルして進めるだけの体力が必要です。また、ビバークせざる得なかったり、ロープの必要な状況が起こる事もあったと考えられます。そのような時に、今回の講習が少しでも役に立てれば良いと思います。

鈴木直樹（浦和溪稜山岳会）